

平成 26 年 度 実 装 活 動 報 告 書

実装支援プログラム（成果統合型）

実装プロジェクト

「国際基準の安全な学校・地域づくりに向けた協働活動支援」

(Collaborative Activity Support for Safe School and Community Based on International Standards)

平成 27 年 3 月 31 日

実装代表者氏名

山 本 俊 哉

(Toshiya YAMAMOTO)

一般社団法人子ども安全まちづくりパートナーズ・代表理事

(Community Design Partners for Children's Safety / Representative Director)

目次

1	実装目標	1
1-1	実装活動の名称	1
1-2	プロジェクト終了時の達成目標	1
2	当該年度の実装活動	2
2-1	全体計画	2
2-2	当該年度（平成26年度）における実装活動	2
	（1）当該年度の実装活動の概要	2
	（2）当該年度の実装活動の具体的内容	4
	① 協働促進 Web サイト	4
	② SC 版総合安全学習プログラム	4
	③ 安全意識評価システム	6
	④ 外傷記録評価システム及び ISS 版安全学習プログラム	6
3	実装活動の推進体制	7
3-1	実装活動の推進体制図	7
3-2	実装活動実施者、協力者	8
4	当該年度における実装活動の一覧	11
4-1	実装活動の実績一覧	11
4-2	成果発信・広報活動等一覧	12
	（1）主催イベント	12
	（2）招聘等によるイベント	12
	（3）運営ウェブサイト	13
	（4）書籍、DVD など発行物	13
	（5）メディア掲載等	13
	（6）その他	13
	（7）学術研究発表	13
	（8）受賞等	14
	（9）特許出願	14
	（10）その他特記事項	14

【参考資料】平成26年度の実装コンテンツ一覧：別紙

1 実装目標

1-1 実装活動の名称

実装プロジェクト名：「国際基準の安全な学校・地域づくりに向けた協働活動支援」

(Collaborative Activity Support for Safe School and Community Based on International Standards)

実装代表者：山本俊哉

(一般社団法人子ども安全まちづくりパートナーズ・代表理事／明治大学理工学部・教授)

実装活動期間：平成 25 年 5 月 7 日 から 平成 28 年 3 月 31 日 まで (35 ヶ月間)

1-2 プロジェクト終了時の達成目標

本プロジェクト終了時には、山本PJを中核に、山中PJと藤田PJで得られた研究開発成果を統合・集約化し、SC・ISSの認証に必要な「根拠に基づいたプログラム」、「事故・暴力等による外傷の発生頻度とその原因を記録するプログラム」および「プログラム、そのプロセス、変化による影響を評価する基準または方法」の作成・実行の支援プログラムとして、「SC版総合安全学習プログラム」「安全意識評価システム」「傷害記録評価システム」「ISS版総合安全学習プログラム」が実装される。また、原田PJ、小泉PJ、下田PJにおける、研究開発成果もプログラムのメニューとして組み込まれ、これら一連の活動によって得られた認証支援プログラムやその適用事例などの成果は、本プロジェクトでつくる「協働促進Webサイト」で公開され、SC推進自治体ネットワーク会議の参加自治体などで、広く活用される。想定するプロジェクト終了時の5つの成果と効果は、以下のとおりである。

【協働促進Webサイト】

協働促進Webサイトは、実装活動実施者をはじめ「犯罪からの子どもの安全」領域の研究開発プロジェクト関係者と実装先のモデルSC(厚木市)・モデルISS(清水小学校)のSC・ISS関係者の協働促進、SC・ISS関係者間のネットワーク形成の促進、本実装活動プロジェクトの情報発信・情報共有を図るシステムである。実装活動終了後は、「全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議」(SCネットワーク会議)により、自立的・継続的に活用されるサイトをめざす。コンテンツ化した「SC版総合安全学習プログラム」「安全意識評価システム」「傷害記録評価システム」「ISS版総合安全学習プログラム」の各認証支援プログラム・システムがこのサイトに搭載される。

【SC版総合安全学習プログラム】

地域における「子どもの犯罪からの安全」を起点にしながらも、交通安全や損傷事故予防などの他の安全分野を包括し、高齢者など幅広い年齢層もカバーしうる、パッケージ化された安全学習プログラムであり、SCの認証に必要なプログラムとして組み込まれ、SCの認証取得・活動推進をはじめ、地域における総合的な安全学習の促進効果が期待される。これまでの研究成果をパッケージ化し、本実装活動期間中にモデルSC(厚木市)等で開催する研修セミナーを通してSC版に仕立て、コンテンツ化したプログラムが「協働促進Webサイト」に搭載される。

【安全意識評価システム】

「子どもの犯罪からの安全」の意識だけでなく、交通事故や転倒事故などの予防や防災などの他の安全意識を含めた、総合的な安全意識に関するモデル的なアンケート票が作成され、それを活用してSC・ISSプログラムと安全意識の因果関係等を評価分析する統計解析アプリケーション・システムが構築されることにより、SC・ISSプログラムによる効果を評価するツールを提供することができる。モデルSC(厚木市)・モデルISS(清水小学校、睦合東中学校)等で実装した成果をコンテンツ化したシステムが「協働促進Webサイト」に搭載される。

【外傷記録評価システム】

小中学校の校内における外傷に関するデータ（負傷者の属性や事故の種類、発生場所等）を簡単に入力して記録し、図面上に各種データを重ね合わせて表示できるソフトウェアを作成し、事故の要因を分析・評価できる簡易なシステムを構築する。それにより、データの入力等の作業負担が軽減されるとともに、ISSプログラムの効果を測定・評価するシステムが用意され、ISSの認証だけでなく、SCの認証の支援ツールとしても提供することができる。モデルISS（清水小学校、睦合東中学校）等で実装した成果をコンテンツ化したシステムが「協働促進Webサイト」に搭載される。

【ISS版総合安全学習プログラム】

小中学校およびその通学路における「子どもの犯罪からの安全」を起点にしながらも、交通安全や損傷事故予防などの他の安全分野を包括し、パッケージ化された、小中学校における総合的な安全学習プログラムであり、ISSの認証に必要なプログラムとして組み込まれ、ISSの認証取得・活動推進をはじめ、小中学校における総合的な安全学習の促進効果が期待される。モデルISS（清水小学校、睦合東中学校）等で実装した成果をコンテンツ化したプログラムが「協働促進Webサイト」に搭載される。

2 当該年度の実装活動

2-1 全体計画

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度
協働促進Webサイトの構築	関係者ヒアリング Webサイトの基盤作成	Webサイトの運用・改善 搭載するコンテンツ作成	Webサイトの完成、実装 活動終了後の運営検討
SC版総合安全学習プログラムの実装	関係者ヒアリング 研修会の試行	SC等での研修会の開催 安全学習コンテンツ作成	
厚木市等における安全意識評価システムの実装	地域対象アンケートの実施	厚木市等における安全意識評価システムの検討	事後アンケート・評価システムのパッケージ化
他地域展開可能な外傷記録評価システムの実装	清水小における傷害データ記録プログラムの試行	睦合東中等他校での試行、検証、改良版の作成	他のデータ技術を活用した改良版システムの検証
ISS版総合安全学習プログラムの実装	関係者ヒアリング 研修会の試行	傷害データに基づく安全学習プログラムの実施	安全学習プログラムの効果検証と改良
その他パッケージ・プログラムの実装		厚木市等の学校・地域における実装	他のSCにおける実装

2-2 当該年度（平成26年度）における実装活動

（1）当該年度の実装活動の概要

【協働促進Webサイト】

「SC版総合安全学習プログラム」「安全意識評価システム」「傷害記録評価システム」「ISS版総合安全学習プログラム」のコンテンツを搭載したWebサイトの名称を「エビデンスに基づいた安全な生活環境づくり（通称エビサポ）」に変更するとともに、FacebookとTwitter機能も加えてアクセス数の増加を図った。一方、SC推進自治体ネットワーク会議の情報共有サイトは、4月にパスワード付きで限定公開して合意形成を図り、次年度から試験運用することになった。

【SC版総合安全学習プログラム】

SC版総合安全プログラムは、神奈川県厚木市以外の地域でも実装活動を展開し、下記の6つのコンテンツの作成を進めた。

・まちの安全点検マップづくりワークショップのパッケージ化

安全点検マップづくりワークショップの担い手を育成する観点から、講義とワークショップを組み合わせた研修を実施した。また、これまでの活動から得られた参加者の意見・感想も踏まえつつ実施者の企画運営を支援するためのツールの開発を行った。

・安全点検まちあるきのための聞き書きマップツールの実用化

より簡単により使いやすくするための改良を重ね、聞き書きマップ ver. 3.0 の作成を行った。また、聞き書きマップの活用マニュアル・ワークショップ実践マニュアルを作成した。聞き書きマップツールを使うことにより、集めたデータの優先順位の決定の議論のプロセスのなかで地域の合意形成を図り、マップづくり自体から地域の改善計画につなげるようにした。

・交通安全関連事例コンテンツの強化

交通安全に関するワークショップのプロセスを評価して、旧山本PJの「防犯まちづくりのヒントとガイド」の活用を促し、ワークショップや活動の事例紹介のコンテンツを強化した。

・安全行動イメージトレーニングの教材化

児童用の「遊具事故予防」「室内（校舎内）事故予防」「交通事故予防」のポスターの活用現場を視察し、発達心理学・児童心理学的知見をもとに実践マニュアルを作成した。実践マニュアルと教材は幼稚園保護者研修に活用し、その使用感のフィードバックを得た。また、幼児の保護者向けの事故予防教材のニーズを受け、幼児の家庭での事故予防教材のポスターを作成した。

・SEL-short(中学生の心の健康、いじめ自殺予防)教材化

SEL-shortをアレンジしたワークショップを厚木市で実施し、学校関係者にアピールするとともに、効果の検証を行った。チラシを作成して協力校を募ったが実施協力校が見つからなかったことから、先に生徒用のワークブックと指導者用の指導案及び学習ツールを作成した。

・インターネットリテラシー指導者養成システムの実装

埼玉県全域を対象に、地域で活動できる指導員を養成した。昨年度作成した冊子を教材にして指導者養成研修を行うとともに、ルールに関する意識調査を行い、その結果をもとに学校や家庭の生活実態にあったルールづくりを進めるという内容で、各地域でルールづくりができるようなパッケージ化を目指した。

【安全意識評価システム】

ISS関連では、埼玉県秩父市の小学校2校、厚木市の中学校1校の児童生徒を対象に学校の安全・安心に関する調査を行った。学校では、安全安心活動を通して育まれると考えられる心の育ちについてもアンケート調査の項目に組み入れて行った。その結果を踏まえ、小学校低学年にも実施できるよう改良したアンケートや中学生の記名式と無記名式との回答の差を見るための追加調査も行った。これらの調査から、小中学校における安全安心意識や心の育ちを把握するための項目の精査、調査票設計に関する知見を得ることができた。また、データは各学校にフィードバックされ、子どもたちの安全活動・安全学習に活かされた。

SC関連では、東京都豊島区区民ひろば富士見台地域の住民意識調査を行った。この調査から、これから安全活動を始めようとする地域が住民の基本的な意見を把握するプロトタイプを作成した。

【外傷記録評価システムおよび ISS 版安全学習プログラム】

今年度は ISS の認証を得た東京都台東区立金竜小学校と、ISS の認証をめざしている豊島区立富士見台小学校の 2 校に電子版のサーベイランスシステムを導入し、併せて安全学習も行った。また、中学校では部活動におけるスポーツ外傷が多発しているという実態があるため、スポーツ外傷事故 709 事例の死亡重傷事故を分析した。その結果、スポーツの種類に因らず、事故の状況によって同じ外傷が起こること、特にぶつかる行為では、脊椎損傷や頭部外傷が非常に多発することが明らかとなった。この結果をもとに重傷事故に繋がりやすい状況を示したイラスト約 30 点を教材として作成した。また、事故予防啓発動画の作成も行った。

(2) 当該年度の実装活動の具体的内容

① 協働促進 Web サイト

協働促進 Web サイト (<http://evisapo.com/>) は、自治体・学校・一般市民にわかりやすく親しみやすいサイトを目指して構築し、これまでに作成したコンテンツの紹介とそれを活用した具体的な事例、研究発表事例、安全プログラム等に関するニュースの配信等を行うとともに、英語サイトも構築した (<http://evisapo.com/en/>)。

これまでは協働促進 Web サイトの名称に本研究プロジェクト名を使っていたこともあり、広報の効果が今ひとつであった。そこで、簡単なキーワードから検索が可能、かつ親しみやすいサイトを目指してアクセス数を伸ばすことを目的に「エビスポ (evisapo.com)」という愛称を考案した。エビスポは「エビデンスに基づいた安全な生活環境づくり (Safe Living Environment that is based on the Evidence)」を略したものである。エビデンスという言葉は一般に定着しているとは言い難いが、逆に「エビデンスってなんだろう？」と興味を喚起することもねらいとしている。さらに、サイトの更新や活動情報をプッシュ配信且つ拡散できるよう、Facebook ページ、および Twitter との連動を開始した。また、全体のプログラムの構成がわかるよう、トップページにサイトマップの役割を担う図版を設置した。

一方、SC 推進自治体ネットワーク会議の情報共有サイトについては、平成 26 年 4 月にパスワード付きで限定公開を行い、SC 推進自治体関係者の閲覧・情報共有を進めた。一般公開に当たっては加盟全自治体の合意形成を図ることが難しいため、次年度から試験的に一般公開することになった。また、統合実装期間終了に備え、自治体職員が自身で更新することを前提とした「Web 運用マニュアル」の素案を作成した。

② SC 版総合安全学習プログラム

SC 版総合安全学習プログラムは、厚木市以外の地域でも実装活動を展開し、下記の 6 つのコンテンツの作成を進めた。

【まちの安全点検マップづくりワークショップのパッケージ化】

安全点検マップづくりワークショップの担い手を育成する観点から、地域や PTA 等の担い手に対し、まちの安全点検マップづくりの基本的理念と方法論について講義とワークショップを組み合わせ合わせた研修を実施した。今年度は厚木市立清水小学校、厚木市内 5 自治会、埼玉県和光市坂下公民館にて担い手研修等を行った。しかし、講義と机上のワークショップだけでは、どの地域でも同質にクオリティの高い活動ができるわけではなく、実施者の理解度や企画力によって差が生まれる実態が明らかとなった。そこで、これまでの活動から得られた参加者の意見・感想も踏まえつつ実施者の企画運営を支援するためのツールの開発を行った。作成したツールは、次の 5 つである。

- ・ 実施者用マニュアル (研修会で活用し、地域に持ち帰って振り返りができるもの)
- ・ 参加者用のしおり (参加者にも安全点検マップの概要がわかるもの)

- ・ 調査項目に対応したアイコンシールとマップの活用カード（安全点検マップづくりにゲーム性や楽しさを加えると共に、何を調査したら良いのか参加者にわかりやすく示すもの）。活用カードは様々な地区の安全活動の事例紹介を兼ねているため、専門家が事例紹介を行わなくてもカードを見ることで自分たちの活動のイメージ作りや改善の検討をすることができる）
- ・ マップを貼り付ける模造紙のフォーマット（タイトル、感想、アイデア欄の設定）

【安全点検まちあるきのための聞き書きマップツールの実用化】

聞き書きマップツールをより簡単により使いやすくするための改良を重ね、聞き書きマップバージョン 3.0 の作成を行った。これによりインストールの難易度が従来よりも軽減されたとともに、写真とコメントの紙媒体への出力のためのインターフェイスを作成し、出力したい写真とコメントをより容易に選択し、印刷できるように改良を行った。また、聞き書きマップの活用マニュアルを作成した。活用マニュアルには聞き書きマップソフトの使用マニュアルだけでなく、ワークショップの進め方のマニュアルも作成した。聞き書きマップの活用で重要なのは、データの収集とデジタル化を省力化するとともに、集めたデータの優先順位の決定の議論のプロセスのなかで、地域の合意形成を図り、マップづくり自体から地域の改善計画につなげることである。その点をマニュアルに盛り込み、聞き書きマップツールの有効活用を促す工夫をした。また、聞き書きマップツールの普及を目指し、文部科学省モデル事業「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」や(公財)全国防犯協会連合会「次世代ボランティア育成プログラム」との連携強化を行った。

【交通安全関連事例コンテンツの強化】

昨年度に厚木市内で行った、4回の地域住民による交通安全ワークショップの、プロセス評価を行ったところ、生活道路の交通の課題は、複雑で利害関係が絡みやすいため、容易に環境改善ができるものではなく、専門家の介入を必要とする場面が多く見られた。また、安全活動を始めるにあたって地域住民自らがアイデアを出すのは難しく、他地区の事例等を参考に自分の地域の実情に合わせてアレンジを加えるという方法が、難易度が低く取り組みやすいことがわかった。そこで、旧山本PJで作成した、専門家等との協働の仕方、まちづくりの合意形成の仕方等も掲載されている「防犯まちづくりのヒントとガイド」を活用し、交通安全に関するワークショップや活動の事例紹介のコンテンツを強化した。

【安全行動イメージトレーニングの教材化】

(独)産業技術総合研究所が分析した多発事故事例のデータをもとに、児童用の「遊具事故予防」「室内(校舎内)事故予防」「交通事故予防」のポスターを昨年度作成し、今年度は厚木市内児童館での活用を図った。その視察と発達心理学・児童心理学的知見をもとに実践マニュアルを作成した。実践マニュアルと教材は、幼稚園保護者研修に活用し、使用感のフィードバックを得た。また、幼児の保護者向けの事故予防教材のニーズを受け、幼児の家庭での事故予防教材のポスターを作成した。

【SEL-short(中学生の心の健康、いじめ自殺予防)教材化】

旧小泉PJのSEL-8S学習プログラム(Social and Emotional Learning of 8 Abilities at the School)は子どもの情動教育を網羅的に行うものであるが、その中から特にニーズの高い中学生のいじめ・自殺予防に関連の深い単元を抜き出して3時間のshortバージョンにし、より学校で実践しやすくしたものがSEL-shortである。厚木市教育委員会主催の小中学校長とPTA会長の合同研修会でSEL-shortを大人用に若干アレンジしたワークショップを実施し、内容をアピールするとともに、効果の検証を行った。事前事後アンケートの結果を比較すると、1回のワークショップでも有意に自己効力感が上がる傾向があり、ワークショップの有効性が確認された。しかしながら、チラシを作成して協力校を募ったものの、なかなか実施協力校が見つからず、具体的な教材等を見せる必要性を感じたため、今年度は、先に生徒用のワークブックと指導者用の指導案及び学習ツールを作成した。

【インターネットリテラシー指導者養成システムの実装】

今年度は埼玉県全域を対象に、地域で活動できる指導員の養成をメインに行った。昨年度作成した冊子を教材として指導者養成研修を行うとともに、ルールに関する意識調査を行い、その結果をもとに、学校や家庭の生活実態にあったルールづくりを進めるという内容で、各地域でルールづくりができるようなパッケージを目指した。ルールづくりに関する意識調査については、質問項目の改良を行い、東京都八王子市内の中学生約3,000人を対象に調査を行って、データに基づいたルールづくりを進める取り組みを準備した。

③ 安全意識評価システム

今年度は秩父市立花の木小学校、南小学校、厚木市立睦合東中学校の3校で学校の安全・安心に関する調査を行った。学校では子どもの自尊感情など子供の心の成長についても関心が高いため、安全安心活動を通して育まれると思われる心の育ちについてもアンケート調査の項目に組み入れて行った。その結果、小学校では4件法は低学年に難しいなど調査票の設計に関する知見が得られ、南小学校にて設問項目を厳選し3件法に改善した調査を全学年に行った。また、睦合東中学校では記名式と無記名式との回答の差を見るための追加調査も行った。これらの調査から、小中学校における安全安心意識や心の育ちを把握するための項目の精査、調査票設計に関する知見を得ることができた。また、データは各学校にフィードバックされ、子どもたちの安全活動・安全学習に活かされた。

地域住民に対する安全意識調査は、「ISS取得を目指す学校に地域はどのように協力するべきか」という課題を持つ豊島区区民ひろば富士見台地域にて、まずは地域住民の基本的な安全意識や、地域に関する認知度を知ることがを目的に調査を行った。この調査では、昨年度、厚木市で行った「住民の安全活動に対する評価」を把握するための調査に対し、これから安全活動を始めようとする地域が住民の基本的な意見を把握するプロトタイプをつくること、プロジェクト側の目的となった。この結果をもとに、区民ひろば富士見台地域では学校と連携した活動を検討することから、アンケートのデータを活用した活動検討の事例としても注目された。

④ 外傷記録評価システム及びISS版安全学習プログラム

今年度は、外傷記録評価システムとISS版安全学習プログラムは、一体化して実装を進めた。これは、これまでの小学校等の聞き取り調査から、傷害サーベイランスや、それを利用した統計解析のみの取り組みでは、学校の導入意欲を引き出すのに十分ではないことが分かってきたためである。今年度は、傷害サーベイランスのアウトプットの一つである安全学習教材やプログラムと一体として取り組むことで、学校の導入を促進する方針へと改善を行った。

その結果、今年度は、ISSの認証を得た台東区立金竜小学校と、ISSの認証をめざしている豊島区立富士見台小学校の2校に電子版のサーベイランスシステムの導入に成功し、併せてサーベイランスに基づく安全学習も行った。特に富士見台小学校では、子ども版3E（Education：教育、Enforcement：法律・安全基準、Environment：環境）の考え方を導入した新しい安全学習（5年生を対象、保健体育領域、5時限）を行い、子ども達同士で活発な議論を展開させることができた。

外傷サーベイランスの導入説明動画、外傷データ記録システム（紙版・電子版）、安全教育コンテンツ、評価アンケート、導入マニュアルから構成される現場導入パッケージを作成し、自治体との意見交換会やセミナー、学校での研修会等を通じて周知した。また、周知・普及に関しては、平成26年度に設立された「(特非)セーフキッズジャパン（代表 山中龍宏）」、「学校安全管理と再発防止を考える会（代表 吉川豊・吉川優子）」、(公社)日本小児保健協会との連携も開始した。日本小児保健協会では母子保健関係者との情報発信ネットワーク構築のためのワークショップも開催し、平成27年度以降も情報発信のために活用可能なメンバーリストを作成した。

また、中学校では、小学校とは大きく異なり、部活動におけるスポーツ外傷が多発しているという実態があるため、日本スポーツ振興センターのスポーツ外傷事故709事例の死亡重傷事故を多次元尺度構成法で分析をした。その結果、スポーツの種類如何に因らず、非常に似た事故状況が見られ、特にぶつかる行為では、脊椎損傷や頭部外傷が多発していることが明らかとなった。

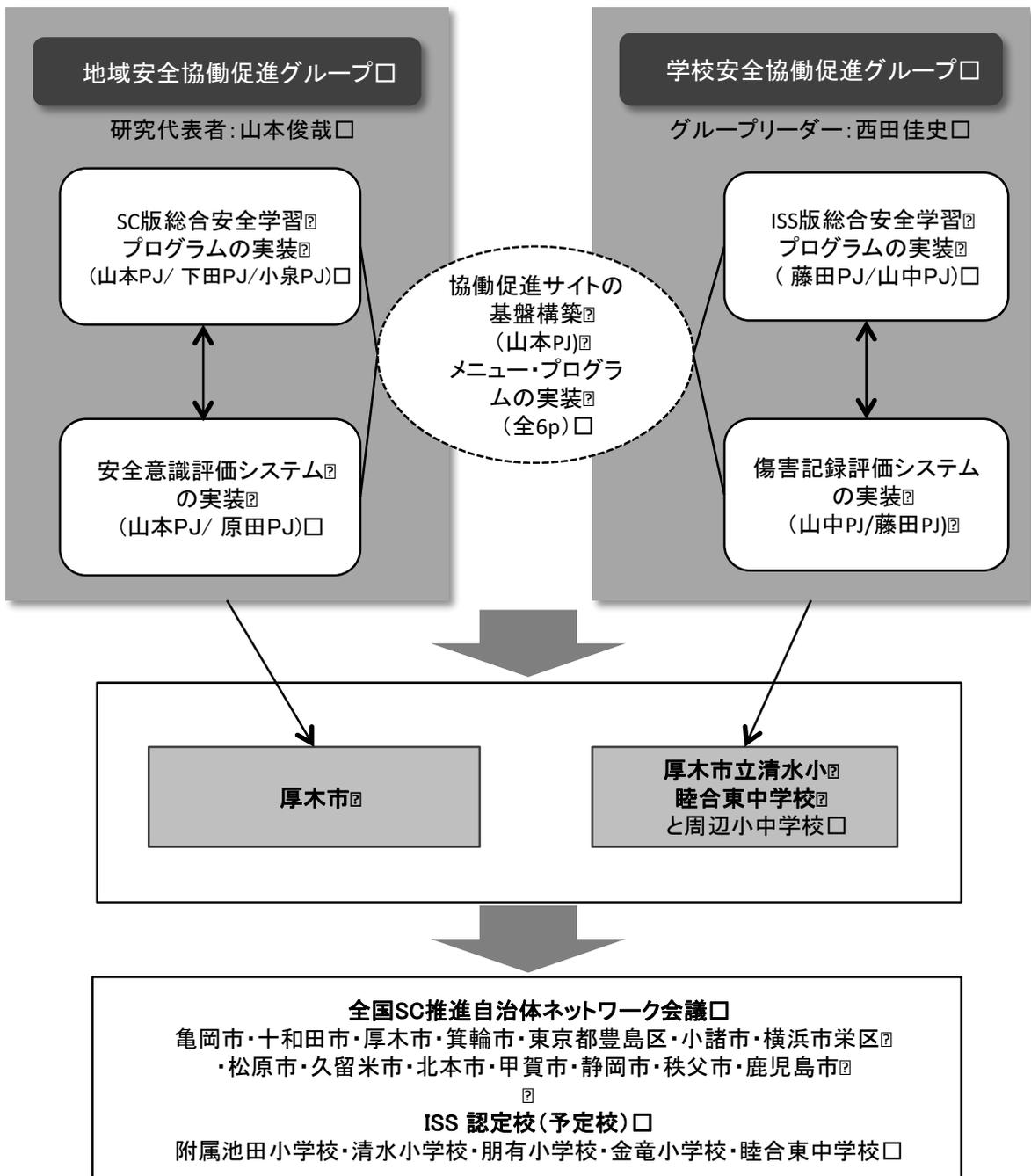
この結果をもとに、重傷事故に繋がりやすいスポーツ状況を示したイラスト約30点を教材として作成した。また、事故は対処療法ではなく予防が大切であるという啓発動画(moving upstream)の作成も行った。

厚木市立病院と連携した医療機関サーベイランスに関しては、医療機関から7千件の外傷データの提供を受け、これを分析することで厚木市における地域課題（誤飲や頭部傷害など）の抽出が可能となった。

また、防犯の e-learning 教材については、その内容をエビサポ内に掲載し普及を図るために、プロモーション動画の作成を行った。

3 実装活動の推進体制

3-1 実装活動の推進体制図



3-2 実装活動実施者、協力者

実装活動実施者

地域安全協働促進グループ(グループリーダー:山本俊哉)

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 実装活動実施項目
山本 俊哉	ヤマモトトシヤ	子ども安全まちづくりパートナーズ 明治大学理工学部	代表理事 教授	協働促進Webサイトの構築 SC版安全学習プログラムの実装
原田 豊	ハラダ ユタカ	科学警察研究所 犯罪行動科学部	部長	安全意識評価システムの実装 SC版安全学習プログラムの実装
島田 貴仁	シマダ タカヒト	科学警察研究所 犯罪予防研究室	室長	安全意識評価システムの実装 SC版安全学習プログラムの実装
齊藤 知範	サイトウトモノリ	科学警察研究所 犯罪予防研究室	主任研究官	安全意識評価システムの実装 SC版安全学習プログラムの実装
山根 由子	ヤマネ ヨシコ	科学警察研究所 犯罪予防研究室	研究員	安全意識評価システムの実装 SC版安全学習プログラムの実装
小泉 令三	コイズミ レイゾウ	福岡教育大学大学院 教育学研究科	教授	SC版安全学習プログラムの実装 その他パッケージ・プログラムの実装
小島 隆矢	コジマ タカヤ	子ども安全まちづくりパートナーズ 早稲田大学人間科学院	理事 准教授	安全意識評価システムの実装
重根 美香	シゲネ ミカ	明治大学理工学部 子ども安全まちづくりパートナーズ	研究推進員 事務局長	協働促進Webサイトの構築 安全意識評価システムの実装
石井 洋平	イシイ ヨウヘイ	子ども安全まちづくりパートナーズ	研究員	協働促進Webサイトの構築
橘 たか	タチバナ タカ	子ども安全まちづくりパートナーズ	研究員	協働促進Webサイトの構築 SC版安全学習プログラムの実装
若林 直子	ワカバヤシ ナオコ	子ども安全まちづくりパートナーズ	研究員	安全意識評価システムの実装
山田 洋平	ヤマダ ヨウヘイ	福岡教育大学	研究補助員	SC版安全学習プログラムの実装 その他パッケージ・プログラムの実装
藤賀 雅人	フジガ マサト	目白大学社会学部	専任講師	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
坂本 拓也	サカモト タクヤ	目白大学社会学部	研究補助員(B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
佐藤 安澄	サトウ アズミ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員(M2)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
李 仙花	イ ソナ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員(M2)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
天津 朋道	アマツ トモミチ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員(M2)	SC版安全学習プログラムの実装
稲垣 祥子	イナガキ サチコ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員(M2)	SC版安全学習プログラムの実装
大村 信望	オオムラ ノゾミ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員(M2)	SC版安全学習プログラムの実装
織田 真実	オダ マサミ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員(M2)	SC版安全学習プログラムの実装
穂坂 彩乃	ホサカ アヤノ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員(M2)	SC版安全学習プログラムの実装
亀井 一得	カメイ イツク	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員(M2)	SC版安全学習プログラムの実装
陳 利華	チン リカ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員(M2)	SC版安全学習プログラムの実装
吉野 加偉	ヨシノ カイ	明治大学理工学部	研究補助員(B4)	SC版安全学習プログラムの実装
秋山 奈保子	アキヤマ ナオコ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員(M1)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
森北 沙恵子	モリキタ サエコ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員(M1)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
白幡 玲子	シラハタ レイコ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員(M1)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装

小花 璃美	オバナ リミ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員 (M1)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
大成 由里子	オオナリ ユリコ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員 (M1)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
小林 大祐	コバヤシ ダイスケ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員 (M1)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
渡邊 弘木	ワタナベ ヒロキ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員 (M1)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
増田 英貴	マスタ ヒデキ	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
黄 民柱	ファン ミンジュ	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
斎藤 了一	サイトウ リョウイチ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員 (M2)	SC版安全学習プログラムの実装
新田 海無	ニッタ カイム	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
天野 友貴	アマノ トモキ	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
熊谷 友花	クマガイ ユカ	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
小宮山 純加	コミヤマ スミカ	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
富田 靖寛	トミタ ヤスヒロ	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
沼尻 麗	ヌマジリ レイ	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
小池 里奈	コイケ リナ	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
山中 盛	ヤマナカ シゲル	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
三木 聖那	ミキ セイナ	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
相川 雄慎	アイカワ ユウシン	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
六車 柁俊	ムグルマ マサトシ	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
清水 拓海	シミズ タクミ	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
金安 淳美	カネヤス アツミ	明治大学理工学部	研究補助員 (B4)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
岩田 桜子	イワタサ クラコ	明治大学理工学部	研究補助員 (B3)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
三元 未朋子	ミツモト ミホコ	明治大学理工学部	研究補助員 (B3)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
大平 悠貴	オオヒラ ユウキ	明治大学理工学部	研究補助員 (B3)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
茂野 夏実	シゲノ ナツミ	明治大学理工学部	研究補助員 (B3)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
谷 玲香	タニ レイカ	明治大学理工学部	研究補助員 (B3)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
原田 将吾	ハラダ ショウゴ	明治大学理工学部	研究補助員 (B3)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
佐藤 光司	サトウ コウジ	明治大学理工学部	研究補助員 (B3)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
向山 直登	ムコウヤマ ナオト	明治大学理工学部	研究補助員 (B3)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
中嶋 洋介	ナカジマ ヨウスケ	明治大学大学院理工学研究科	研究補助員 (D1)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
介川(松井)亜紀	スケガワ(マツイ) アキ	明治大学理大学院理工学研究科	研究補助員 (M1)	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装

実装活動協力者

実装グループ名：地域安全協働促進グループ（山本俊哉）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	協力内容
倉持 隆雄	クラモチ タカオ	厚木市役所	セーフコミュニティ 総合指導員	厚木市および全国SC自治体に関する 情報提供と連携調整
岩澤 栄一	イワサワ エイチ	厚木市役所危機管理部	部長	厚木市および全国SC自治体に関する 情報提供と連携調整
山内 勇	ヤマウチ イサム	亀岡市役所		亀岡市および全国SC自治体に関する 情報提供と連携調整
斎藤 雅人	サイトウ マサト	豊島区役所	特命政策 担当部長	豊島区のSCとISSに関する情報提供と 連携調整
井上 憲正	イノウエ ノリマサ	厚木市危機管理部 セーフコミュニティ推進課	課長	厚木市教育委員会や清水小周辺地域 関係者との連携調整
藍原 万里子	アイハラ マリコ	厚木市立清水小学校	校長	清水小学校関係者および周辺小中学校 関係者との連携調整
南波 正志	ナンバ マサシ	厚木市立睦合東中学校	校長	睦合東中学校関係者および周辺小中学校 関係者との連携調整
守山 正	モリヤマ タダシ	拓殖大学政経学部	教授	安全意識調査アンケートの内容と その分析結果の考察に対する助言
三矢 勝司	ミツヤ カツジ	名古屋工業大学	助教	SC版安全学習プログラムの提供
狗飼 豊	イヌカイ ユタカ	子ども安全まちづくりパートナーズ	理事	協働促進Webサイトの構築と各種情報発信 に対する助言
下田 太一	シモダ タイチ	(特) 青少年メディア研究協会	理事長	SC版安全学習プログラムの提供とその他 パッケージ・プログラムの実装に関する助言
吉永 真理	ヨシナガ マリ	昭和薬科大学	教授	SC版安全学習プログラムとその他 パッケージ・プログラムの実装に関する助言

学校安全協働促進グループ（グループリーダー：西田佳史）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	協力内容
藍原 万里子	アイハラ マリコ	厚木市立清水小学校	校長	清水小学校関係者および周辺小中学校関 係者と連携調整
南波 正志	ナンバ マサシ	厚木市立睦合東中学校	校長	睦合東中学校関係者および周辺小中学校 関係者と連携調整
井上 憲正	イノウエ ノリマサ	厚木市危機管理部 セーフコミュニティ推進課	課長	厚木市教育委員会や清水小周辺地域 関係者との連携調整
山田 淳司	ヤマダ ジュンジ	厚木市教育委員会 青少年教育相談センター	所長	厚木市教育委員会、厚木市児童思春期精 神保健NW推進委員会等との連携調整
栗原 まな	クリハラ マナ	神奈川県総合リハビリテーション センター 東京慈恵会医科大学 小児科	小児科部長 准教授	子どもの傷害に関する傷害データ (特に、後遺症データ)に関する協力
木下 勇	キノシタ イサミ	千葉大学大学院園芸学研究所	教授	子ども環境に係るパッケージ・プログラムに 関する助言
杉本 裕	スギモト ユタカ	日本スポーツ振興センター	学校安全部業務推 進役	厚木市における小中学校の事故データの 提供

4 当該年度における実装活動の一覧

4-1. 実装活動の実績一覧

年月日	主催・名称	場所	招聘者	参加人数
H26年 6月10日	厚木市 青少年課 主催 「児童館職員研修」	ヤングコミュニ ティセンター (厚木市)	西田佳史 重根美香	約40人
H26年 6月14日	戸室地区連合町会 主催 「交通安全ワークショップ」	戸室公民館 (厚木市)	橘たか 重根美香	約20人
H26年 6月21日	厚木市立清水小学校 PTA 主催 「安全点検マップづくり」	清水小学校 (厚木市)	重根美香	約60人
H26年 6月23日	豊島区 区民ひろば富士見台 主催 「第1回区民ひろば安全活動全体会議」	区民ひろば 富士見台 (豊島区)	重根美香	約30人
H26年 7月13日	秩父市 セーフコミュニティ研修会 「セーフコミュニティの魅力と面白さ」	秩父市歴史 文化伝承館 (秩父市)	西田佳史 北村光司	約100人
H26年 7月14日	豊島区 区民ひろば富士見台 主催 「第1回アンケート調査ワーキング」	区民ひろば 富士見台 (豊島区)	若林直子 重根美香	約10人
H26年 7月24日	豊島区 区民ひろば富士見台 主催 「第2回アンケート調査ワーキング」	区民ひろば 富士見台 (豊島区)	若林直子	約10人
H26年 9月25日	豊島区 区民ひろば富士見台 主催 「第2回区民ひろば安全活動全体会議」	区民ひろば 富士見台 (豊島区)	重根美香 若林直子	約10人
H26年 10月7日	南小学校教員・PTA 合同研修会	南小学校 (秩父市)	西田佳史 北村光司	約50人
H26年 10月9日	厚木市 SC 推進課主催 「安全マップづくり研修」	アミュー厚木 (厚木市)	重根美香 橘たか	約25人
H26年 10月11日	厚木市 教育委員会 主催 「平成26年度PTA会長と教育関係者 との研究会」	アミュー厚木 (厚木市)	吉永真理 重根美香 他6名	約100人
H26年 10月28日	和光市 坂下公民館 主催 「まちの安全点検マップづくり講習 第1回目」	坂下公民館 (和光市)	重根美香	約16人
H26年 10月29日	厚木市 教育委員会 主催 「厚木市家庭教育家庭情報提供講演会」	アミュー厚木 (厚木市)	西田佳史 重根美香	約80人
H26年 11月4日	和光市 坂下公民館 主催 「まちの安全点検マップづくり講習 第2回目」	坂下公民館 (和光市)	橘たか	約16人
H26年 11月5日	和光市坂下公民館 主催 「まちの安全点検マップづくり講習 第3回目」	坂下公民館 (和光市)	橘たか	約16人
H27年 1月16日	豊島区 区民ひろば富士見台 主催 「第3回区民ひろば安全活動全体会議」	区民ひろば 富士見台 (豊島区)	若林直子 重根美香	約30人
H27年 2月14日	セーフコミュニティ推進自治体 ネットワーク会議	北本市役所	山本俊哉 石井洋平	約30人

4-2. 成果発信・広報活動等一覧

(1) 主催イベント

年月日	名称	場所	参加人数
H26年 4月20日	東日本地区 SC・ISS 推進自治体と RISTEX 統合実装プロジェクトとの意見交流会	明治大学	約50人
H26年 9月6日	聞き書きマップを活用した秩父市のま ちの安全点検マップづくりワークショップ	秩父市役所および 花の木小学校区・ 南小学校区	約50人
H26年 11月29日	安全安心な学校・地域づくり推進自治体と RISTEX 統合実装プロジェクトとの合同研修会	堺市立東文化会館	約40人

(2) 招聘等によるイベント

年月日	主催・名称	場所	招聘者	参加人数
H26年 5月24日	ハンブルク日本文化祭	ハンブルク大学 アジア・アフリカ 研究所	山本俊哉 李 仙花 ほか	約100名
H26年 7月31日	六本木地区安全安心まちづくり推進会議 主催 講演会 「まちの安全安心に向けた地域の取組み」	麻布区民センタ ー (港区)	山本俊哉	約60名
H26年 9月27日	宇都宮市防犯協会 主催 講演会 「地域で協働して見守る子どもの安全」	宇都宮市役所 (宇都宮市)	山本俊哉	88人
H26年 9月28日	日本市民安全学会 主催 講演会 「アジアにおけるセーフコミュニティの 多様性」	ショッパーズ プラザ新浦安 (浦安市)	山本俊哉	約20人
H26年 9月29日	NPO 法人り・らいふ研究会主催 講演会 「防災まちづくりと密集市街地の改善」	旭化成 ファミリーホール (新宿区)	山本俊哉	約60名
H26年 11月29 日	第11回日本市民安全学会西日本大会 in さかい 堺市民安全・安心フォーラム	堺市立東文化会館 (堺市)	山本俊哉 西田佳史 下田太一	約200人
H27年 1月18日	横須賀市安全・安心まちづくり推進連絡 協議会 主催 講演会 「防犯活動から安全まちづくりへ」	横須賀芸術劇場 (横須賀市)	山本俊哉	約100人
H27年 1月19日	埼玉県住まいづくり協議会 主催 講演会 「エビデンス(根拠)に基づく住まいの防犯」	埼玉教育会館 (さいたま市)	山本俊哉	約50人

(3) 運営ウェブサイト

- ・ エビデンスに基づく安全な生活環境づくり (名称・ドメイン変更リニューアル公開 H26年 12月 1日) <http://evisapo.com>
- ・ 全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議 (H26年 4月 14日 *アクセス制限付き 内部公開) <http://sc-iss.net>

(4) 書籍、DVDなど発行物

- ・ 大阪教育大学、2015年『大阪教育大学にて開発したe安全学習教材(小学校低・中・高学年用 防犯教育 e-learning 教材)のデモ版(DVD)』

(5) メディア掲載等

- ・ 山本俊哉:「子どもの安全・安心対策」『小学1年生入学準備号』小学館、2015年1月、pp50-51
- ・ 山本俊哉:「親が知っておくべき子どもための防犯のヒント」Urban ぽど、2014年8月
- ・ 「世界164都市『新セーフコミュニティモデル』共同開発:『アジアセーフコミュニティ大会』 閉幕、安全文化運動プログラム共有、相互協力『共同宣言文』採択」釜山日報、2014年5月15日

(6) その他

なし

(7) 学術研究発表

①論文発表(国内誌2件、国際誌1件)

- ・ 山本俊哉:「子どもを事故や犯罪から守るまちづくり」『月刊地方議会人』2014年12号、pp8-11
- ・ 大野美喜子, 西田佳史, 北村光司, 山中龍宏, 藤田大輔:「学校傷害サーベイランス一体型の 安全教育ツールの開発」『小児保健研究』第61回日本小児保健協会学術集会講演集, Vol. 73, pp.106, 2014
- ・ K. Kitamura, K. Imai, H. Takemura, "Potential Risk Assessment System by Integrating Injury Data at Multiple Schools," 2nd International Conference on Safety Management and Human Factors, July 2015 (in press)

②招待講演(国内会議0件、国際会議0件)

・なし

③口頭発表(国内会議6件、国際会議3件)

- ・ Mika Shigene (Meiji Univ.):「Examination of Evaluation Technique that the Safe Community Activities are Evaluated though the Local Residents' Consciousness Investigation」第7回SCアジア会議、釜山、2014年5月13日
- ・ Azumi Sato(Meiji Univ.):「Evaluate about ISS program of children's safety from crime on the way to school」第7回SCアジア会議、釜山、2014年5月14日
- ・ Yutaka Harada, Tomonori Saito and Yoshiko Yamane (National Research Institute of Police Science):「Utilizing the Latest Satellite Positioning Technology for Effective and Sustainable Safety Promotion Activities Led by Local Residents」The 7th Asian Conference on Safe Communities in Busan, Korea, 2014年5月14日
- ・ 山本俊哉(明治大学):「日本における環境設計を通じた犯罪予防(CPTED)の適用と展開」日本刑法学会、京都、2014年5月18日
- ・ 重根美香(明治大学):「地域安全マップ作成が住民の安全安心意識に与える影響」行動計量学会第42回大会、仙台、2014年9月3日
- ・ 重根美香(明治大学):「住民意識調査に基づくセーフコミュニティの地域活動評価」2014年度日本建築学会大会(近畿)、神戸、2014年9月13日

- ・ 佐藤安澄 (明治大学) : 「セーフコミュニティにおける子どもの安全プログラムの評価 ～ 国際セーフスクールのプログラムの特徴と課題」九州工業大学大学院研究交流会、北九州、2014年11月22日
- ・ 山中龍宏, 西田佳史, 北村光司 (産業技術総合研究所) : 「スポーツ傷害予防の基本的考え方と科学的実践～変えられるものを見つけて変える～」日本スポーツ振興センター スポーツ事故防止対策推進協議会セミナー, 2015年2月6日
- ・ 佐藤安澄(明治大学) : 「セーフコミュニティにおける子どもの安全プログラムに関する研究 ～セーフスクールとの連携に着目して」明治大学大学院理工研究科新領域創造専攻 (安全学系) 修士論文発表会、東京、2015年2月20日

④ポスター発表 (国内会議1件、国際会議5件)

- ・ 重根美香 (明治大学) : 「家庭での子どもの挨拶行動に対する働きかけと犯罪不安の関連」こども環境学会、京都、2014年4月26日
- ・ Junko Toyosawa, Kensuke Goto, & Daisuke Fujita (Osaka Kyoiku University) : 「Development of e-learning education material of crime prevention for elementary school children in Japan」第7回SCアジア会議、釜山、2014年5月13日
- ・ Yoshiko YAMANE, Yutaka HARADA (National Research Institute of Police Science) : 「Neighborhood Watch Maps Made Easy and Scientific: a Proposal for Utilizing Paper-Based Outputs of Computerized Maps」第7回SCアジア会議、釜山、2014年5月13日
- ・ Taca Tachibana (Community Design Partners for Children's Safety) : 「Development of the program, Area-Safety-Check-Map, for an Improvement of Safe Activities」第7回SCアジア会議、釜山、2014年5月14日
- ・ Toshiya Yamamoto (Meiji Univ.) : 「Support Children Safety Program through the Multiple R&D Results Integration Projects」第7回SCアジア会議、釜山、2014年5月14日
- ・ Sunhwa Lee, Masatoshi Muguruma (Meiji Univ.) : 「Activities of International Safe School and Safe Community in Asia」Humburg Univ. 2014年5月22日, 5月24日

(8) 受賞等

なし

(9) 特許出願

①国内出願

なし

②海外出願

なし

(10) その他特記事項

なし